



## 増補新訂 医療機関における産業保健活動ハンドブック

監修：相澤好治 編著：和田耕治 発行：公益財団法人 産業医学振興財団 定価：(2,700円+税)

大学病院の実態を生々しく描いた山崎豊子の小説「白い巨塔」が1966年に映画化され、大学の医療現場は医学会の腐敗の象徴として描かれていた。当時は医師の長時間労働や無給助手は当然のことであり「封建的」な体制の中、ストレスは自分自身で対処すべきという風潮があった。

1972年、労働基準法から労働安全衛生法が分離し、一般企業の産業保健活動の充実が求められたが、大学病院等の医療現場は産業保健活動から取り残されたままだった。

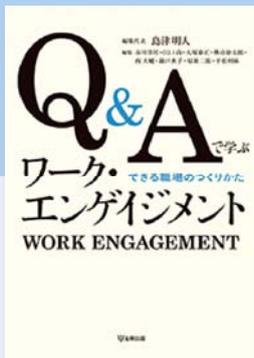
2005年6月に過重労働を強いられ急性心筋梗塞で死亡した研修医の労働者性が認定され、一方では国立

大学独法化により産業医活動を導入する医療機関が増えた。医療の質を高めるためには、医療従事者の健康保持・増進が必須であることが広く認識されるようになり、この重要性を察知した和田耕治氏は同年に「医療機関での産業保健の手引き」を発刊した。同時に医師会や日本産業衛生学会にて研究会を立ち上げ、2013年、本書の初版が発刊され多くの医療機関の産業保健活動導入に貢献している。

本書(改訂版)は、産業保健活動に取り組むための工夫が簡潔に示されているため、多くの産業保健スタッフ、特に嘱託産業医の方々に推薦したい。

おだ すずむ  
織田 進

(福岡産業保健総合支援センター 所長)



## Q&Aで学ぶ ワーク・エンゲイジメント できる職場のつくりかた

編集代表：島津明人 発行：株式会社 金剛出版 定価：(2,200円+税)

健康経営、働き方改革、ポジティブメンタルヘルスなどの推進に欠かせない概念で、近年、健康でいきいきと働くための考え方として注目を集める、ワーク・エンゲイジメント(以下「WE」という。)

本書は、日本国内におけるWEの第1人者である島津明人氏の編集のもと、様々な分野の研究者や実務者達により執筆されており、WEに関する取組を進める上で必要な要素が全て詰まったこれまでにない画期的な書籍となっている。

本書の特徴として、以下が挙げられる。

①Q&A方式かつ平易な表現での記述が、とにかく読みやすい、②WEとの関連領域が網羅的に包含され

ている、③豊富な引用論文(科学的な根拠の紹介)が掲載されている、④テーマ毎にまとめられており、目的別に読み進めることができる、⑤読み手を選ばない(労働者本人、人事・総務担当者、産業保健スタッフ、から経営者まで、どの立場の人が読んでも役に立つ)

これらの特徴から、専門書的な側面も持ちつつ、入門書としても利用が可能で、今後WEに関わる全ての人のバイブルになることは間違いない。

まだご覧になられていない方には1日も早く目を通して、職場と個人におけるWEの向上に役立てていただきたい。

かじき しげゆき  
梶木 繁之

(センクス産業医事務所 パートナー医師、  
(株)産業保健コンサルティングアルク(AORC) 代表取締役)

### 編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長 相澤 好治 北里大学名誉教授  
大西 洋英 独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事  
加藤 隆康 豊田衛生管理者研究会顧問  
神ノ田昌博 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長  
甲田 茂樹 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所所長代理

興梠 建郎 新潟産業保健総合支援センター所長  
田中希実子 NTT東日本健康管理センター看護部長  
浜口 伝博 ファームアンドブレイン社代表/産業医  
東 敏昭 学校法人産業医科大学学長  
松本 吉郎 公益社団法人日本医師会常任理事